



光が丘地区の公共施設の状況

- *療育センター陽光園、陽光台保育園など、子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えなどを検討する時期を迎えています。
- *小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学習環境のあり方の検討を行い、市教育委員会において「令和7年4月を目途に青葉小学校を閉校し、光が丘小学校・陽光台小学校・並木小学校に再編する」という対応方針が定められたところです。

ワークショップの目的

閉校後の「青葉小学校を今後どのように活用していきたいか」について考え、皆さんの地域への思いを集めることを目的としています。

コンセプト

具体的な
活用方法



【全4回ワークショップ日程について】

ワークショップの概要

第1回 (11月27日)	学校での思い出や、地域の魅力・課題の共有 学校での思い出や地域活動を共有して、地域の魅力や課題を考えよう！
第2回 (12月19日)	跡地活用のイメージ 施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことなどを考えよう！
第3回 (1月15日)	再編コンセプトや跡地活用の具体化 やりたいことなどをカタチにして、再編コンセプトを考えよう！
第4回 (2月12日)	再編案のまとめ 実現に向けて、施設の使い方などをイメージして、再編案をまとめよう！

【ワークショップの参加者と運営体制】

日頃よりまちづくりや地域活動にご尽力いただいている地域の代表、関連団体、施設利用団体からの推薦のほか、施設利用者、一般公募による様々な立場や世代の方、総勢17名に参加していただいています。

光が丘の地域の
皆さん

東京都立大学
のスタッフ

相模原市
の職員

東京都立大学のご協力をいただきながら皆さんのワークをサポートしていきます！

本村市長より

少子高齢化の時代になり、市民に必要なサービスをこれからも続けていくためには、施設やサービスのあり方を見直していかなければならないと思っています。私たちの責任は次の世代の子ども達や孫の世代に対しても相模原市の希望のタスキをつないでいくことだと考えます。光が丘地区は本当に地域の皆さまが熱い思いをもった地域だと感じています。思いの丈をどんどん述べていただきたいです。皆さまのご意見をしっかり行政サイドで頂戴しながら、相模原市民がワクワクするまちづくりを光が丘地区から作っていきたいと思っています。



11月27日(土)に第1回ワークショップを開催しました！

第1回ワークショップは「学校での思い出や地域活動を共有して、地域の魅力や課題を考えよう！」をテーマに行いました。

ワークの流れ

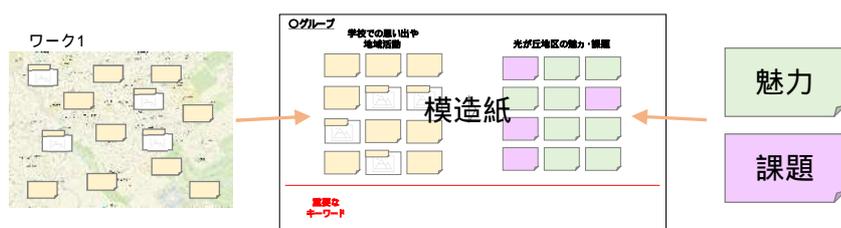
ワーク1：学校での思い出や地域活動の共有

付せんや持参していただいた写真を使って、「学校での思い出」や「地域活動」について地図に貼りながら、グループ内で共有していただきました。



ワーク2：光が丘地区の魅力や課題の抽出

ワーク1をふまえ、付せんに「地区の魅力」や「地区の課題」を書き出し、模造紙に貼りつけながら重要なキーワードをグループ内で検討。その後全体で発表していただきました。



第1回目ワークの結果

A グループ

💡 キーワード

学校での思い出
や地域活動

魅力

課題



- ・ 公共施設を中心にした人や地域のつながり
- ・ 多世代交流

放課後自由な
出入りが出来る
校庭だった

町民の大運動会が
出来る広い校庭

公園や小学校
の公共施設の
規制が厳しい

公園と学童が
近くお互いの
子供が遊んで
いた

校庭のはじにあっ
た銀杏の木、紅葉
がキレイ!!

コロナによるダイヤ
変更でバスが使いに
くい

各世代が活躍し
楽しめる
ふるさとまつり

青葉小が交通・防災・
防犯の話し合いの中心
の場となっている



興味深かったのが、無理に世代間をつなごうとしているわけではなく、緩やかにつながっていること、そして多世代がそれぞれ活躍できる場をととても大切にしていることです。世代間のそれぞれの活躍の場を地域としてバックアップしてちゃんと用意している環境作りが上手なのではないかと感じました。



B グループ

💡 キーワード

ONE TEAM 楽しく！つながる！



子どもたちが中心
となって企画運営
する「子ども未来
ワールド」

若い世代の背中
を押してくれる
人が多い

公園でボール遊びが
できないので道路で
遊んでいる

青葉小PTA主催の
わくわくフェスタ

地区連が
活発である

通学路の見守り(旗
ふり)をしていて
いる人が年々減っ
ている

全校遠足の旗振り
保護者と学校と
の関係がいい

地域が「ダメ」だけ
を言って終わらない
理由を聞いてくれる

地域の「祭り」の数が多く、それらが活発に行われているのは、光が丘地区の一つの特徴なのでしょう。これは地域の財産で、地域的なつながりも生み出していると思います。お祭りのみならず様々な地域をつながり(地区連等)で、地区全体がつながっていると感じました。



讃岐先生

C グループ

💡 キーワード

- ・ 子供たちを地域で育てる / 地域の和 / 世代間交流 / 大人と子ども
- ・ 祭り好き
- ・ 必要な場所 (楽器が使える / ボール遊びできる / 光が丘ならではの遊び場所)



1000円会費で
楽しい飲み会

小地域でのサロン
活動が活発

皆がのんびり
集えるスペース
がない

三自治会
夏祭り
道保川公園

この地域が好き
人が多いと思う

狭い道路が
多く危険だ

青葉小の体育館で
“お年寄りのつどい”
200人の大盛況！

卒業しても関わり
がある 小学校が
沢山あるからこそ
特別感もある

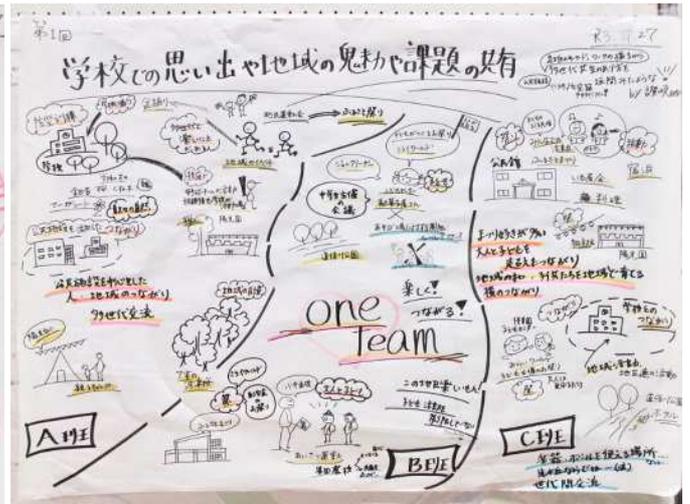
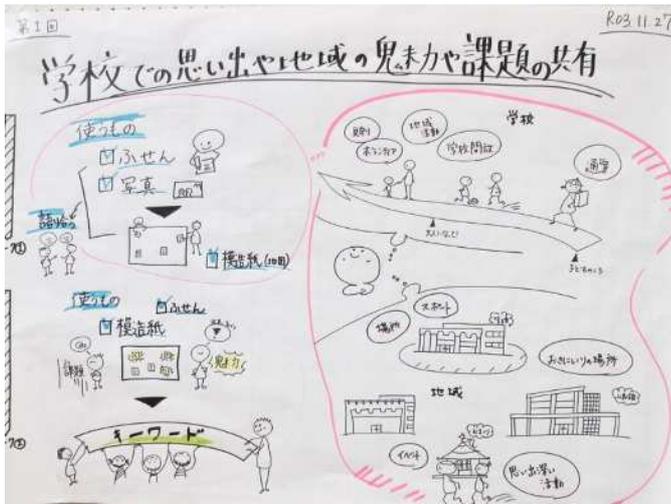
発表の内容もそうですが、それにかぎらず、積極的に他のグループを見に行ったり、意見交換をしに行ったりしていたことや、最年少の高校生の方が今日参加してくれていることは、まさに「地域間や世代間のつながり」という光が丘地区の特徴を表していると思いました。



讃岐先生



フォトギャラリー



讃岐先生



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担っている。

公共施設は「ハコモノ」という風に使われることがありますが、皆さんにとって今回話題の中心になる青葉小学校は、とても大事な「資産」の一つだと思います。単なる「ハコモノ」ではなく、「宝箱」にしていきたいですね。そのために皆さんのアイデアを募りたいという想いで、市はワークショップを開催しているわけです。今回扱う公共施設や施設の再編等のテーマは、難しいところがあるかもしれませんが、皆さんが本当にワクワクできるまちを思い描けるように、ワークショップ自体もワクワク気分で取り組んでいただきたいと思います。

次回予告

12月19日(日) 14:00～

会場：光が丘公民館
大会議室

「跡地活用のイメージ」

施設を見て、既存ストックを使ってやりたいことを考えよう！

発行

第1号発行日：令和3年12月13日

作成：東京都立大学 学生スタッフ

発行：相模原市 市長公室 総合政策部 経営監視課

〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15

042-769-9240